

日本の歴史を記録した『日本書紀』が編さんされてから、今年で1300年を迎えます。そこに記されている神話では、神武天皇が*1東征して朝廷をつくり、初代天皇になったとされます。その即位の日を、現在の暦に換算した2月11日が建国記念の日です。今回は、霧島市に伝わる神

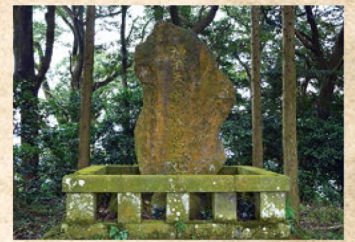
じんむ 神武天皇の伝説

武天皇伝説を紹介します。

紀元2600年の石碑

神武天皇は神話上の人物であり、実在しなかったという考えが現在では一般的です。『日本書紀』の記述から南九州の出身といわれていますが、各地で出生や所在に関する伝説が残されています。

神武天皇即位を紀元とし、その年から2600年の節目となった、昭



神子落の石碑



宮浦宮の石碑



台明寺の石碑と腰掛岩

和15（1940）年には、日本全国で神話や皇室をたたえる記念事業が行われました。天孫降臨などさまざまな神話が伝わる本市でも、多くの事業が行われました。特に国分・福

山地域では、神武天皇の伝説に関する石碑が建てられ、3地域に今も残っています。

国分川内には神子落という地名があり、神武天皇が通った際に幼児を落としたという伝承が残っています。

福山町福山にある宮浦宮は、神武天皇が祭神で、東征前に過ぎた場所とされています。境内の巨大な2本のイチヨウは、東征出発の際に神武天皇が植えたともいわれています。

国分台明寺は、東征の際に立ち寄った場所とされ、台明寺の竹を矢に

使ったといわれています。ここにあり大きな岩は、神武天皇が座ったと言われている「腰掛岩」と呼ばれています。

これらは、郷土誌では触れられておらず、石碑にのみ残されている伝承です。

2人の「若尊」

国分敷根と福山町の境にある岬・若尊鼻には、神武天皇が宮浦宮を出発してここに上陸したという伝承があり、「若尊」は若い頃の神武天皇を指しています。

一方で、第12代景行天皇の時代に熊襲討伐を命じられた皇子・日本武尊が、上陸した場所という伝承もあります。若い頃の話であったため「若尊」は日本武尊を指しているという説もあります。

若尊鼻の突端にある若尊神社には、神武天皇と日本武尊が祭られていま

すが、2人の「若尊」がいつから祭られるようになったのかは不明です。江戸時代の薩摩藩の様子をまとめた『三國名勝図会』では、若尊神社の祭神は不明となっていて、石に恵まれた景勝地として有名であったとの記述があるのみです。

神武天皇の伝説も、その時期によって内容が変化していったのかも知れません。

（文責＝小水流）

郷土の扉

The gateway to local history



※1 神武天皇が九州から大和（現在の奈良県）に上り、日本を建国するまでの説話のこと。

※2 「日本書紀」などに登場する南九州の部族のこと。大和朝廷に反抗していた。